

4 国語審議会ローマ字調査分科審議会

(昭 25. 4. 17～

)

○政 令 (昭和 25. 4. 17)

政令第 85 号

(原文は縦書)

政令第 135 号 (一部改正, 昭和 26. 5. 8)

政令第 338 号 (一部改正, 昭和 27. 8. 1)

国 語 審 議 会 令

内閣は、文部省設置法 (昭和 24 年法律第 146 号) 第 24 条第 2 項の規定に基づき、この政令を制定する。

(所掌事務)

第 1 条 国語審議会 (以下「審議会」という。)は、左に掲げる事項を調査審議し、及びこれらに関し必要と認める事項を文部大臣及び関係各大臣に建議する。

- 1 国語の改善に関する事項
- 2 国語の教育の振興に関する事項
- 3 ローマ字に関する事項

(組織)

第 2 条 審議会は、委員 70 人以内で組織する。

- 2 特別の事項を調査審議するため必要があるときは、審議会に臨時委員を置くことができる。
- 3 専門の事項を調査するため必要があるときは、審議会に専門調査員を置くことができる。

第 3 条 委員及び臨時委員は、政治、教育、学術、文化、報道、経済等の各界における学識経験のある者及び関係各庁の職員につき、文部大臣が定める方法で推薦された者のうちから、文部大臣が任命する。

2 専門調査員は、学識経験のある者のうちから、審議会の意見を聞いて文部大臣が任命する。

第4条 学識経験のある者のうちから任命された委員の任期は、2年とし、その欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前者の残任期間とする。

2 臨時委員は、特別の事項の調査審議が終ったときは、退任するものとする。

3 委員、臨時委員及び専門調査員は、非常勤とする。

第5条 委員により会長として互選された者は、審議会の会務を総理する。

2 委員により副会長として互選された者は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(分科会)

第6条 審議会に、ローマ字に関する事項を担当させるため、ローマ字調査分科審議会（以下「分科会」という。）を置く。

第7条 分科会に属する委員及び臨時委員は、文部大臣が指名する。

第8条 分科会に属する委員により分科会長として互選された者は、分科会の会務を掌理する。

2 分科会長に事故があるときは、分科会に属する委員のうちから、分科会長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。

(部会)

第9条 審議会及び分科会は、審議会の定めるところにより、部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員及び臨時委員は、会長が指名する。

3 各部会に属する委員により部会長として互選された者は、各部会の会務を掌理する。

(議事)

第10条 審議会は、委員及び議事に関係のある臨時委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。

2 審議会の議事は、出席した委員及び議事に関係のある臨時委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

3 審議会及び分科会の会議は、原則として公開とする。

4 審議会又は分科会は、必要あると認めるときは、関係者に対し、第1条に掲げる事項に関し、意見の開陳又は説明を依頼することができる。

5 第1項及び第2項の規定は、分科会及び部会の議事に準用する。
(庶務)

第11条 審議会の庶務は、文部省調査局において処理する。

(雑則)

第12条 この政令に定めるもののほか、審議会の議事の手続その他その運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附 則

1 この政令は、公布の日から施行する。

2 国語審議会令(昭和24年政令第253号)及びローマ字調査審議会令(昭和24年政令第256号)は、廃止する。

○省令(昭和26.7.5)

文部省令第16号

(原文は縦書)

国語審議会令(昭和24年政令第85号)第3条第1項の規定に基づき、国語審議会の委員及び臨時委員の推薦方法に関する規程を次のように定める。

昭和26年7月5日

文部大臣 天 野 貞 祐

国語審議会の委員及び臨時委員の推薦方法に関する規程

第1条 国語審議会の委員及び臨時委員は、国語審議会委員等推薦協議会（以下「協議会」という。）が推薦する。

2 協議会は、必要あるごとに文部大臣が設ける。

3 協議会は、国語審議会の委員のうちから互選した7人以上15人以内の者で構成する。

4 協議会は、当該委員及び臨時委員の推薦を終ったときに、解散するものとする。

5 協議会の議事の手続その他その運営に関し必要な事項は、協議会が定める。

第2条 協議会は、学識経験のある者のうちから任命すべき委員及び臨時委員の推薦に当っては、あらかじめ政治、教育、学術、文化、報道、経済等の各界について委員及び臨時委員を選出すべき分野を定め、推薦しようとする者についてその分野に係る代表的団体の意見を聞かなければならない。

第3条 文部大臣は、緊急を要する場合その他特別の事情ある場合には、委員及び臨時委員3人以内を限り、前2条の規定にかかわらず、国語審議会の会長の推薦をもって協議会の推薦にかえることができる。

附 則

この規程は、公布の日から施行する。

○会議の開会

第1期（昭和25年4月～昭和27年4月）

- ・国語審議会総会

第5回（昭和25.4.17）～第14回（昭和27.4.14）

- ・ローマ字調査分科審議会総会

第1回（昭和25.10.19）

・部会（国語審議会に設置のもの）

。ローマ字教育部会

部会第1回（昭和25.11.20）～第16回（昭和27.3.17）

起草委員会第1回（昭和26.10.29）～第2回（昭和26.12.24）

・部会（ローマ字調査分科審議会に設置のもの）

。つづり方部会

第1回（昭和25.6.26）～第24回（昭和27.2.25）

。分ち書き部会

部会第1回（昭和25.7.10）～第16回（昭和27.1.28）

連絡会第1回（昭和27.1.21）～第2回（昭和27.2.25）

補注：1 国語審議会は、第1回総会を昭和24年11月10日に開き、その第4回総会までは、国語審議会とは別にローマ字調査審議会が設置されていた。昭和25年4月17日ローマ字調査審議会令が廃止され、国語審議会令が一部改正されて、国語審議会にローマ字調査分科審議会が設置された。

2 分ち書き部会における連絡会とは、日時の関係上、正式に部会を開く余裕がなかったために、打合せのため開催されたものである。

第2期（昭和27年4月～昭和29年4月）

・国語審議会総会

第15回（昭和26.6.2）～第20回（昭和29.3.15）

・ローマ字調査分科審議会総会

第1回（昭和27.7.7）～第14回（昭和29.3.2）

・部会

。教育部会

第1回（昭和28.11.18）～第4回（昭和29.2.9）

。わかち書き部会

小委員会第1回（昭和28.7.24）～第2回（昭和28.9.21）

部会第1回（昭和28.11.17）～第4回（昭和29.2.11）

補注：1 今期のローマ字調査分科審議會は、つづり方の単一化を先議事項とし、部会を設けず、分科会の委員全員で審議をした。

2 わかち書き部会に小委員会を設けたのは、部会の設置は国語審議会総会の承認を要するので、それまでの暫定処置としてである。

3 国語審議会総会の回数は第1期から引きつづいて呼称する。

第3期（昭和29年7月～ ）

・国語審議会総会

第21回（昭和29.9.20～ ）

・ローマ字調査分科審議会総会

第1回（昭和29.11.1～ ）

・部 会

注：国語審議会総会の回数は第1期、第2期から引きつづいて呼称する。

国語審議会委員名簿（第1期）

（昭和25.6.12現在）

委 員

会 長	土 岐 善 鷹	早稲田大学講師，教科用図書検定調査審議会委員，文学博士
副 会 長	宮 沢 俊 義	東京大学教授，法学博士
	青 野 季 吉	評論家，早稲田大学講師
	阿 利 資 之	中部日本新聞社東京総局顧問
	有 光 次 郎	秀英出版社長，学術奨励審議会委員
	安 藤 正 次	東洋大学教授，教育刷新審議会委員

池田義信	日本映画連合会事務局長
石黒修治	国立教育研究所員，国語協会理事
今井直一	三省堂取締役
牛山栄治	東京都新宿区牛込第一中学校長，教育刷新審議会委員
大野巖	大野化学会社長，能率協会理事，工学博士
緒方富雄	東京大学教授，医学博士
折口信夫	慶応大学教授，国学院大学教授，文学博士
鹿住徳一	読売新聞社記事審査委員会副委員長
河竹繁俊	早稲田大学教授，文学博士
金田一京助	国学院大学教授，文学博士
倉石武四郎	東京大学教授，文学博士
佐々木孝丸	劇作家組合常任委員長
颯田琴次	東京大学附属医専部長兼教授，日本放送協会評議員，医学博士
佐野利器	東京大学名誉教授，教育刷新審議会委員，工学博士
沢登哲一	東京都立第五高等学校長，社会教育審議会委員
園田次郎	朝日新聞社新聞用語改善委員会委員長
滝口義敏	共同通信社連絡局長
田口泖三郎	科学研究所所員
千種達夫	東京地方裁判所判事
坪田譲治	作家
照井猪一郎	明星学園中学校長兼小学校長
時枝誠記	東京大学教授，文学博士
内藤侃	日本労働組合総同盟出版部長
中島健蔵	東京大学講師，日本著作家組合書記長，教科用図書検定調査審議会委員

中	村	宗	雄	早稻田大学教授，法学博士
野	村	兼	太郎	慶応大学教授，経済学博士
服	部	静	夫	東京大学教授，理学博士
服	部	四	郎	東京大学教授，文学博士
原		富	男	専修大学教授，文学博士
藤	森	良	信	毎日新聞社出版局書籍部顧問
舟	橋	聖	一	作家，文芸家協会理事長
前	田	賢	次	東京商工会議所業務部長
松	坂	忠	則	カナモジカイ理事長
務	台	理	作	東京教育大学教授，文学博士
山	口	吉	郎	東京大学教授，工学博士
菅	野	義	丸	総理府官房副長官
佐	藤	達	夫	法務府法制意見長官
剣	木	享	弘	文部事務次官

臨時委員

井	上	達	二	井上眼科病院長，医学博士
宇	田	道	夫	日本放送協会編成局演出部長
大	塚	明	郎	成城大学教授，理学博士
桑	原		信	国立国会図書館主事
千	葉		勉	上智大学教授
長	沼	直	兄	財団法人言語文化研究所理事長
福	田	邦	三	東京大学教授，医学博士
松	浦	四	郎	法政工業専門学校幹事兼教授
武	藤	辰	男	東京都杉並区宮前中学校長
村	田	五	郎	日本タイムズ社取締役兼渉外局長
山	崎	好	次郎	横須賀市立山崎小学校長
吉	田	甲	子太郎	明治大学教授

ローマ字調査分科審議会

安藤正次	有光次郎	石黒修治
井上達二	宇田道夫	大塚明郎
金田一京助	倉石武四郎	桑原
佐野利器	田口柳三郎	千葉
中島健蔵	長沼直兄	服部四郎
福田邦三	松浦四郎	松坂忠則
武藤辰男	村田五郎	山崎好次郎
吉田甲子太郎		

国語審議会 ローマ字教育部会委員名簿

(昭和 25. 6. 12 現在)

部会長	石黒修治	
部会委員	安藤正次	牛山栄治
	佐野利器	大塚明郎
	時枝誠記	照井猪一郎
	武藤辰男	松浦四郎
		山崎好次郎

ローマ字調査分科審議会 つづり方部会委員名簿

(昭和 25. 6. 12 現在)

部会長	安藤正次	
部会委員	有光次郎	井上達二
	大塚明郎	宇田道夫
	佐野利器	桑原
	中島健蔵	千葉
		服部四郎

福田邦三 松浦四郎 村田五郎
 武藤辰男 山崎好次郎

ローマ字調査分科審議会 分ち書き部会委員名簿

(昭和 25.6.12 現在)

部会長	大塚明郎		
部会委員	安藤正次	石黒修治	金田一京助
	桑原信	田口昶三郎	千葉勉
	中島健蔵	服部四郎	松浦四郎
	松坂忠則	武藤辰男	山崎好次郎
	吉田甲子太郎		

国語審議会委員名簿(第2期)

(昭和 27.6.3 現在)

委員

会長	土岐善麿	都立日比谷図書館長, 国立国語研究所評議員, 文学博士
副会長	宮沢俊義	東京大学法学部長, 法学博士
	麻生磯次	東京大学教養学部長, 文学博士
	有光次郎	秀英出版社長
	安藤正次	東洋大学教授, 国立国語研究所評議員会長
	池上退蔵	朝日新聞社記事審査部付
	江尻進	日本新聞協会編集部長
	遠藤嘉基	京都大学教授, 文学博士
	大住達雄	三菱倉庫社長

大塚明郎	成城大学講師，理学博士
緒方富雄	東京大学教授，医学博士
折口信夫	慶応大学・国学院大学教授，文学博士
楓井金之助	東京新聞社校閲部長
甲斐政治	日本民間放送連盟事務局長
亀井勝一郎	評論家，文芸家協会理事
河竹繁俊	早稲田大学教授，文学博士
北浜清一	香川県坂出市西庄小学校長，日教組教育文化部長
木下一雄	東京学芸大学学長
金田一京助	国学院大学教授，国立国語研究所評議員，文学博士
倉石武四郎	東京大学教授，国立国語研究所評議員，文学博士
桑原武夫	京都大学人文科学研究所教授，国立国語研究所評議員
小林英夫	東京工業大学兼名古屋大学教授，文学博士
颯田琴次	東京芸術大学教授，国立国語研究所評議員，医学博士
佐藤為治郎	読売新聞社校閲部長
佐野利器	東京市政調査会副会長，工学博士
沢登哲一	都立小石川高等学校長，国立国語研究所評議員
渋谷秀雄	著作家
下村宏	法学博士
田口柳三郎	科学研究所員
竹田復	東洋大学教授，文学博士
千種達夫	東京地方裁判所判事
千葉勉	上智大学教授
都留重人	一橋大学教授

照井猪一郎	三鷹市明星学園中学校長兼小学校長
時枝誠記	東京大学教授，国立国語研究所評議員，文学博士
殿木圭一	共同通信社編集局次長
中島健蔵	東京大学講師，日本著作家組合書記長，国立国語研究所評議員
中村茂	N・H・K放送文化研究所長
長沼直兄	言語文化研究所理事長
波多野完治	お茶の水女子大学教授，国立国語研究所評議員
服部静夫	東京大学教授，理学博士
原富男	東京文理科大学講師，文学博士
舟橋聖一	作家，文芸家協会理事
保科孝一	東京文理科大学名誉教授
堀内庸村	日本ローマ字会理事
前田賢次	東京商工会議所業務部長
松坂忠則	カナモジカイ理事長，国立国語研究所評議員
丸野不二男	毎日新聞社校閲部長
吉川幸次郎	京都大学教授，文学博士
吉田甲子太郎	明治大学教授
剣木享弘	内閣官房副長官
佐藤達夫	法務府法制意見長官
日高第四郎	文部事務次官

ローマ字調査分科審議会

佐野利器	有光次郎	安藤正次
江尻進	大塚明郎	北浜清一
木下一雄	金田一京助	倉石武四郎

桑	原	武	夫	小	林	英	夫	田	口	泖	三郎
千	葉		勉	照	井	猪	一郎	時	枝	誠	記
中	島	健	藏	長	沼	直	兄	波	多	野	完
堀	内	庸	村	松	坂	忠	則	吉	田	甲	子太郎

国語審議会

ローマ字調査分科審議会 教育部会委員名簿

(昭和 28.10.8 現在)

部会長	有	光	次	郎							
部会委員	遠	藤	嘉	基	大	塚	明	郎	北	浜	清
	木	下	一	雄	金	田	一	京	助	小	林
	佐	野	利	器	照	井	猪	一郎	時	枝	誠
	長	沼	直	兄	波	多	野	完	治	堀	内
	吉	田	甲	子太郎							

国語審議会

ローマ字調査分科審議会 わかち書き部会委員名簿

(昭和 23.10.8 現在)

部会長	長	沼	直	兄							
部会委員	遠	藤	嘉	基	大	塚	明	郎	金	田	一
	小	林	英	夫	田	口	泖	三郎	中	島	健
	堀	内	庸	村	松	坂	忠	則			藏

国語審議会委員名簿（第3期）

（昭和29.11.1現在）

委員

会長	土岐善麿	都立日比谷図書館長，国立国語研究所評議員，文学博士
副会長	金田一京助	学士院会員，国学院大学教授，国立国語研究所評議員，文学博士
	有光次郎	秀英出版社長
	池上退蔵	朝日新聞社記事審査部
	池田弥三郎	慶応義塾大学助教授
	石井庄司	東京教育大学教授
	伊藤忠兵衛	伊藤忠商事社長，国立国語研究所評議員
	上野陽一	産業能率短期大学長
	遠藤嘉基	京都大学教授，文学博士
	大住達雄	三菱倉庫社長
	大塚明郎	東京教育大学教授，理学博士
	緒方富雄	東京大学教授，医学博士
	楓井金之助	東京新聞社校閲部長
	河竹繁俊	早稲田大学教授，文学博士
	倉石武四郎	東京大学教授，国立国語研究所評議員，文学博士
	桑原武夫	京都大学教授，国立国語研究所評議員
	高津春繁	東京大学教授，文学博士
	酒井三郎	日本民間放送連盟事務局長
	颯田琴次	東京芸術大学教授，国立国語研究所評議員，医学博士
	佐藤孝二	東京大学教授，理学博士
	佐藤為治郎	読売新聞社校閲部長

渋沢秀雄	作家
下村宏	藤楓会会長，法学博士
菅原卓	劇作家
高木市之助	愛知県立女子短期大学長，文学博士
田口泖三郎	京都外国語短期大学長
竹田復	東洋大学教授，文学博士
田村秋子	文学座名誉俳優
千種達夫	東京地方裁判所判事
照井猪一郎	明星学園小・中学校長
時枝誠記	東京大学教授，国立国語研究所評議員，文学博士
殿本圭一	共同通信社編集局次長
中島健蔵	東京大学講師，国立国語研究所評議員
中村茂	N・H・K放送文化研究所長
西本三十二	国際基督教大学教授
野島秀義	中央区立文海中学校長
野間忠雄	東京都教育庁指導部長
波多野完治	お茶の水女子大学教授，国立国語研究所評議員，文学博士
服部静夫	東京大学教授，理学博士
原富男	東京教育大学講師，文学博士
舟橋聖一	作家
古谷綱武	評論家
保科孝一	東京文理科大学名誉教授
前田賢次	東京商工会議所業務部長
前田雄二	日本新聞協会編集部企画課長
松坂忠則	カナモジカイ理事長，国立国語研究所評議員
丸野不二男	毎日新聞社紙面審査委員

吉 川 幸次郎	京都大学教授，文学博士
吉 田 甲子太郎	明治大学教授
谷 口 寛	内閣官房副長官
林 修 三	内閣法制局次長
田 中 義 男	文部事務次官

ローマ字調査分科審議会

分科会長	有 光 次 郎		
	石 井 庄 司	遠 藤 嘉 基	大 塚 明 郎
	桑 原 武 夫	下 村 宏	田 口 泖三郎
	照 井 猪一郎	中 島 健 蔵	野 間 忠 雄
	波多野 完 治	吉 田 甲子太郎	

5 官制・政令・規程などによらない会議

(1) ローマ字教育対策懇談会

(a) 趣 旨

ローマ字教育の実施に関する対策を協議し、ローマ字教育協議会を設ける準備としての打合せをするために開かれた。

(b) 期 日

昭和21年6月15日

(c) 出席者（出席予定者を含む。）

加茂正一，鬼頭礼蔵，佐伯功介，土岐善麿，服部四郎
教科書局長，ほか関係官

(d) 議 事

ローマ字教育実施の対策について。

(2) ローマ字教育協議会

(a) 趣 旨

小学校ならびに新制中学校で実施されることになったローマ字教育に関するいろいろの問題についての対策を協議するために設置されたものである。

(b) 期 間

昭和21年6月29日～昭和21年10月22日

総 会

第1回（昭和21.6.26）～第2回（昭和21.10.22）

起草協議員会

第1回（昭和21.7.4）～第2回（昭和21.9.30）

起草協議員会つづり方研究会（昭和21.10.10）

専門協議員会

第1回(昭和21.7.22)～第5回(昭和21.9.12)

(c) 協議員名簿 (◎議長, ◎起草兼専門協議員, ○起草協議員)

◎石 黒 修 治	国語協会常務理事
入 江 俊 郎	内閣法制局長官
◎岩 淵 悦太郎	第一高等学校教授
○大久保 正太郎	国語教育学会幹事
○坪 井 忠 二	東京帝国大学教授, 理学博士
◎土 岐 善 麿	朝日新聞社客員
時 枝 誠 記	東京帝国大学教授, 文学博士
中 野 好 夫	東京帝国大学助教授
◎服 部 四 郎	東京帝国大学助教授, 文学博士
○緒 方 富 雄	東京帝国大学助教授, 医学博士
◎加 茂 正 一	
城 戸 又 一	毎日新聞社文化部長
◎鬼 頭 礼 蔵	農民講道館農業専門学校教授
◎佐 伯 功 介	日本ローマ字会常務理事
◎飛 田 多喜雄	成蹊学園初等学校主事
○福 原 麟太郎	東京文理科大学教授
古 垣 鉄 郎	日本放送協会専務理事
奥 中 孝 三	
○松 坂 忠 則	カナモジカイ常務理事
村 上 義 保	週刊少国民副編修長
山 極 武 利	常盤国民学校長
宮 崎 静 二	中央大学講師
教科書局長, 学校教育局長ほか関係官	

(d) 議 事

ローマ字教育を行うについての意見

ローマ字教育の指針

ローマ字文の書き方
等について

(3) ローマ字調査委員会準備会

(a) 趣 旨

昭和22年度から、小学校および中学校においてローマ字教育が実施されているが、これについてさらに研究を進め、改善をはかり、ローマ字による国語の書き表わし方、ならびに教育に関するあらゆる問題について、学術上・教育上・実際生活上等の観点からじゅうぶんな検討を加えるために設置されるべきローマ字調査委員会についてのいろいろの準備・打合せのために開かれたものである。

(b) 期 間

昭和22年12月5日～昭和23年1月29日

総 会

第1回(昭和22.12.5)～第2回(昭和23.1.29)

小委員会

第1回(昭和22.12.11)～第2回(昭和23.1.22)

(c) 出席者(出席予定者を含む。)

大塚明郎	日本ローマ字会
土岐善麿	ローマ字運動本部
奥中孝三 千葉勉	ローマ字ひろめ会
石黒修治	国語協会常務理事
松坂忠則	カナモジカイ
金田一京助	日本言語学会
安藤正次 時枝誠記	国語学会

長 沼 直 兄	言語文化研究所理事長
坪 井 忠 二	科学技術関係者
山 崎 匡 輔	教育刷新委員会
海 後 宗 臣	中央教育研究所理事
務 台 理 作	教育研修所長
黒 岩 武 道	日本教職員組合文化部長
中 野 好 夫	日本文芸家協会
中 島 健 蔵	日本作家組合
田 島 道 治	実業家
畝 田 武二郎	内閣事務官
鮫 島 真 男	法制局第三部長
花 島 克 巳	日本出版協会
池 上 退 蔵	朝日新聞社用語研究室
滝 口 義 敏	時事通信社調査部長
古 垣 鉄 郎	日本放送協会専務理事
有 光 次 郎	文部次官
教科書局長，ほか関係官	

(d) 議 事

- ローマ字調査委員会委員選出の基準・範囲・方法
- ローマ字調査委員会において研究・審議すべき事項
- ローマ字調査委員会運営の方法
- 等について

(4) ローマ字に関する学習指導要領編修協議会

(a) 趣 旨

ローマ字教育の方針・方法その他については、「ローマ字教育の指針」により、一応その基準は示されているが、その基準をさら

に明確にするため、「学習指導要領（国語科編）」のなかにローマ字に関する事がらが採り入れられることになったので、その原案を作成するために設置されたものである。

補注： 学習指導要領の編修事務は初等中等教育局の初等教育課，中等教育課の所管であるが，ローマ字については，従来から調査局国語課の所管であるので，学習指導要領のローマ字に関する部分についてはこの協議会が原案の作成にあたり，作成された原案を初等中等教育局所管の「国語学習指導要領編修委員会」に回付したのである。

(b) 期 間

昭和25年4月10日～昭和26年1月24日

第1回（昭和25.4.10）～第22回（昭和26.1.24）

(c) 協議員名簿（昭和25年4月現在）

石 黒 修 治	国立教育研究所所員
泉 節 二	東京学芸大学付属小学校教諭
小 川 俊一郎	杉並区立和田中学校長
亀 井 孝	一橋大学助教授
鬼 頭 礼 蔵	ローマ字運動本部副委員長
高 野 柔 蔵	北区立滝野川小学校教諭
長 沼 直 兄	言語文化研究所理事長
飛 田 多喜雄	成蹊中学校教諭
松 井 早 苗	台東区立育英小学校教諭
官 崎 勝 式	東京教育大学付属中学校教諭
武 藤 辰 男	杉並区立宮前中学校長
吉 田 甲子太郎	明治大学教授

(d) 議 事

小学校の国語科におけるローマ字文の学習指導について
中学校の国語科におけるローマ字文の学習指導について

(5) 文部省ローマ字教育実験調査研究会

(a) 趣 旨

文部省ローマ字教育実験学級に対する指導試案・テスト問題等の作成をし、また、学習指導の結果の分析・評価、その他についての研究協議をするために設けられたものである。

(b) 期 間

昭和26年6月25日～昭和29年3月31日

(c) 委員名簿

(昭和29年2月現在)

小 林 行 雄	文部省調査局長
天 沼 寧	文部省調査局国語課
安 藤 新太郎	東京都教育庁指導主事
石 黒 修 治	
岩 淵 悦太郎	国立国語研究所研究第1部長
小 川 俊一郎	東京都杉並区立泉南中学校長
小田原 喜治彦	東京都大田区立久原小学校教官
金 子 好 郎	清明学園初等学校教諭
鬼 頭 礼 蔵	ローマ字教育研究所教育部長
木 宮 乾 峰	文部省初等中等教育局初等教育課
久 納 六 郎	東京都新宿区立牛込仲之小学校教官
桜 庭 信 之	東京教育大学教育学部助教授
白 石 大 二	文部省調査局国語課長
高 野 柔 蔵	東京都荒川区立真土小学校長
丸 山 千 織	東京都渋谷区立千駄谷小学校教官
三 尾 紗	日本ローマ字会理事
村 上 俊 亮	国立教育研究所長

(d) 実験学級名その他

(昭和29年2月現在)

県名	学校名	学校所在地	校長名	担当教官名	児童数
1 北海道	北海道学芸大学函館分校付属小学校	函館市八幡町153	林 重信	中川 繁	39
2 秋 田	秋田大学学芸学部付属小学校	秋田市東根小屋町64	久司 慶三	斉藤千弥男	50
3 山 形	光が丘小学校	酒田市浜畑町75	村田 悌雄	渋谷 豊四	48
4 宮 城	富谷小学校	黒川郡富谷町西沢13	平島 武夫	渡辺 孝夫	42
5 新 潟	川崎小学校	長岡市干場町	鷲尾 末松	石口 輝隆	45
6 栃 木	宇都宮大学学芸学部付属松原小学校	宇都宮市戸祭町1637	野中 退蔵	浜野 衛	42
7 埼 玉	宮寺小学校	入間郡宮寺村605	中野喜代春	荻野 勉	36
8 埼 玉 (川口市)	青木南小学校	川口市青木町3--390	加藤 武緒	生方 弘代	46
9 東 京	常磐松小学校	渋谷区常磐松町	椎野 開蔵	本橋 茂夫	61
10 静 岡 (磐田市)	磐田北小学校	磐田市見付	鳥居 誠一	榑原なみ子	56
11 三 重	新鹿小学校	南牟婁郡新鹿村	尾川 貞夫	仲 敏郎	34
12 奈 良	浮孔小学校	大和高田市三倉堂	中原 菊明	橋本 好史	40
13 兵 庫	新宮小学校	揖保郡新宮町新宮	中塚 光男	松浦 知己	40
14 鳥 取	若桜小学校	八頭郡若桜町	小倉 威	藪田 芳子	41
15 香 川	法勤寺小学校	綾歌郡法勤寺村1200	三谷 修平	山下 雄	42
16 徳 島	桑島小学校	鳴門市撫養町	金岡 四郎	藤田 博子	30
17 愛 媛	生石小学校	松山市生石町	佐川 通義	新山 賢	51
18 福 岡	東国分小学校	久留米市国分町	宮崎 好雄	稻益 静雄	34
19 熊 本	隈府小学校	菊池郡隈府町隈府	工藤 達也	岡本 計助	44
20 長 崎	深江小学校	南高来郡深江村	中村 茂彦	和田 真登	41

